

都市再生整備計画 事後評価シート
小杉地区

令和3年3月

富山県 射水市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 富山県 | | 市町村名 | 射水市 | | 地区名 | 小杉地区 | | | 面積 | 194 ha | | |
|---------------------------------|--|---------------|---|--|-----|--|---|-----------------------------|-------|------------|---|---|--------|
| 交付期間 | 平成28年度～令和2年度 | | 事後評価実施時期 | 令和2年度 | | 交付対象事業費 | 865.0百万円 | | 国費率 | 40% | | | |
| 1) 事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 基幹事業 | 歌の森運動公園【公園】、下条川千本桜ポケットパーク【地域生活基盤施設(広場)】、中央図書館駐車場整備【地域生活基盤施設(駐車場)】、歴史と文化を巡る道【高質空間形成施設(緑化施設等)】、射水市地域交流センター(いみず市民交流プラザ)【高次都市施設(地域交流センター)】 | | | | | | | | | |
| | | | 提案事業 | 事業効果分析等【事業活用調査】 | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 基幹事業 | - | | - | | - | | - | | | |
| | | | 提案事業 | - | | - | | - | | - | | | |
| | 新たに追加した事業 | | 基幹事業 | - | | - | | - | | - | | | |
| | | | 提案事業 | 屋根付きバス停整備【地域創造支援事業】 | | 地域交流センターの改修に伴い障害者連合会の事務所も新規に入所することから利用者に配慮し追加。 | | 指標への影響は整備する施設の目的が同じであり生じない。 | | | | | |
| 交付期間の変更 | 当初 | 平成28年度～平成32年度 | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | | | | | | | | | |
| 2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | 単位 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | |
| | 指標1 | 公共公益施設の利用者数 | 人/年 | 61,541 | H26 | 73,000 | R2 | モニタリング | 評価値 | 46,816 | あり | 射水市地域交流センター(いみず市民交流プラザ)のリニューアルにより、地域福祉や生涯学習など市民が広く交流できる地域拠点を形成。新型コロナウイルスの影響により施設利用者数は目標値を下回る結果となった。自粛緩和後は利用者数に制限をかけていたが横ばいとなり回復傾向がみられた。複合施設として公共・公益施設の集約化が図られたことで利便性・公的サービスの質が向上し、地域住民や各種団体の交流及び利用促進につながったと考えられる。 | 令和3年6月 |
| | 指標2 | 地区内人口 | 人 | 8,380 | H27 | 8,380 | R2 | モニタリング | 評価値 | 8,760 | あり | 市民生活に身近な公園、図書館の駐車場改善や散策ルートのバリアフリー整備等により地域の生活利便性が向上。数値目標は既に達成しており、住みよい生活環境が整ったことで、宅地開発が活発化する等、定住人口の確保、人口増加につながったと考えられる。 | 令和3年6月 |
| | 指標3 | 歴史文化施設利用者数 | 人/年 | 6,638 | H26 | 6,640 | R2 | モニタリング | 評価値 | 2,996 | あり | 新型コロナウイルスによるイベント中止等が影響し、竹内源蔵記念館の施設利用者数は目標値を下回る結果となった。しかし、10月以降は従前と横ばい傾向にあることから、目標とする従前利用者数は維持することができた。新型コロナウイルスが終息すれば例年通りイベントを実施し、利用者数が復活すると考えられる。 | 令和3年6月 |
| | 指標 | 単位 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | |
| | その他の数値指標1 | | | | | | | | | | | | |
| 4) 定性的な効果発現状況 | 小杉まちづくり協議会が主体となり下条川千本桜ポケットパーク等を活用したイベントを実施した。市民や学生から募った絵画の展示をする等、地域住民主体によるまちづくり活動により市民意識の向上に寄与できた。 | | | | | | | | | | | | |
| 5) 実施過程の評価 | | | 実施内容 | | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | |
| | モニタリング | | - | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | |
| | 住民参加プロセス | | ・事業に関するパブリックコメントを実施(H29.1.4～2.3) ・地域交流センター整備に係る地元説明会の実施(全4回) ・広報に地域交流センターオープンのお知らせを掲載(R2.2) | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | 今後も地域住民、施設利用者の意見を聞き、利用促進を図る。 | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | | ・「小杉まちづくり協議会」と連携し、本事業により整備する施設の活用や継続的なまちづくり活動とともに、観光客と地域住民の交流の活性化を図ることで、魅力ある地域づくりを実現していくものとする。 | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | 小杉まちづくり協議会等の市民が主体となり、地域の維持、改善、振興に関する事業に対し、市は連携を図りながらその活動がより活発化するよう後方支援する。 | | |

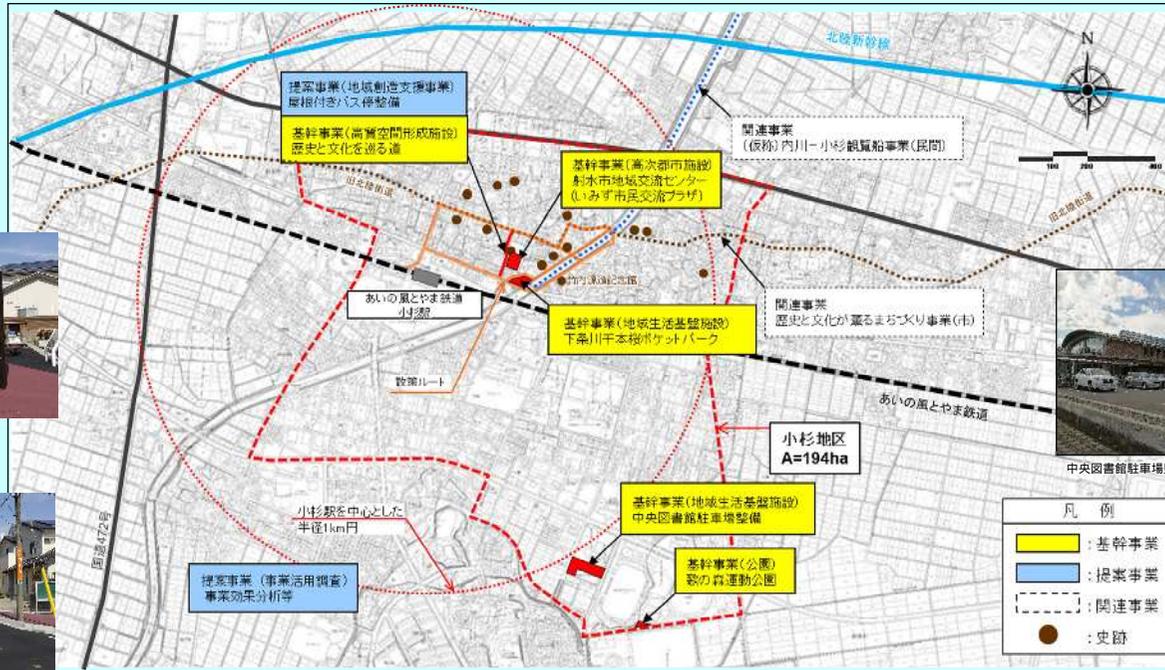
様式2 - 2 地区の概要

小杉地区(富山県射水市) 都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | 従前値 | 目標値 | 評価値 | |
|---|-------------|---------|------------|-----------|-----------|
| 大目標: 「あいの風とやま鉄道小杉駅周辺におけるコンパクトで魅力あるまちづくりにより、多世代が住み続けられるとともに、地域資源を活かし来訪者を呼び込む」 目標1 「公共施設機能のコンパクト化」: あいの風とやま鉄道小杉駅を中心としたエリアに公共・公益施設を集約し、活性化を図る。 目標2 「生活利便性の向上」: 生活環境の整備によって定住人口を維持する。 目標3 「交流人口の拡大」: 歴史や文化、自然や景観を生かした散策エリアを形成し、地域資源を情報発信することで交流人口の拡大を図る。 | 公共公益施設の利用者数 | 単位: 人/年 | 61,541 H26 | 73,000 R2 | 46,816 R2 |
| | 地区内人口 | 単位: 人 | 8,380 H27 | 8,380 R2 | 8,760 R2 |
| | 歴史文化施設利用者数 | 単位: 人/年 | 6,638 H26 | 6,640 R2 | 2,996 R2 |



下条川千本桜ポケットパーク
(多目的トイレ・四阿設置)



射水市地域交流センター(いみず市民交流プラザ)



下条川千本桜ポケットパーク
(船着場)



屋根付きバス停整備



歴史と文化を巡る道



歴史と文化を巡る道



中央図書館駐車場整備(東側(正面))



中央図書館駐車場整備(西側)



歌の森運動公園(駐車場)

| | |
|---------------------|---|
| まちの課題の変化 | <ul style="list-style-type: none"> あいの風とやま鉄道小杉駅を中心としたエリアに射水市地域交流センター(いみず市民交流プラザ)が再整備されたことにより、公共・公益施設が集約し、地域住民の交流が図られる地域活性化の拠点となった。 不足していた歌の森運動公園や射水市中央図書館の駐車場整備により、各施設利用者に対して安全性と利便性の向上を図ることができた。 小杉駅から近く、旧北陸道の散策ルート内にある下条川千本桜ポケットパークの整備により、観光船発着所や待合スペース兼用のトイレとベンチが設置され、舟運による射水市内観光地の回遊性を高め交流人口の拡大が今後期待できる。また、歴史と文化を巡る道整備により観光客を散策エリア内に安全かつスムーズに誘導することができた。 |
| 今後のまちづくりの方策(改善策を含む) | <ul style="list-style-type: none"> あいの風とやま鉄道小杉駅を中心とした都市機能の集積と賑わいの形成を推進する。 本事業による基盤整備を活かし、地域資源の効果的・継続的活用が図れるよう、まちづくりの牽引役となる小杉まちづくり協議会をはじめ、高等教育機関・各種団体や地域住民同士の交流と連携を促進する。 都市機能を集約する際、高齢者や学生をはじめとする住民が日常生活に必要なサービスを身近に享受するために、拠点へのアクセスを確保するなど、公共交通の維持・充実について一体的に検討する必要がある。 歴史・文化資産等の活用と併せ、下条川の豊かな自然環境を生かし、人々が集いにぎわい憩える空間としての利活用を促進する。 |